

一般社団法人東京都ホッケー協会総会議事録

日 時： 2020年6月27日（土）10時05分～11時30分

場 所： 菅野理事（総務委員会総会事務局）宅

総正会員数： 66

出席正会員数： 45（議決権行使者出席 1、委任状 2、議決権行使書 42 を含む）

議事：

定時総会はコロナ感染症リスクを回避するため、小さなリアル総会とそれをWEBで中継するいわゆるバーチャル総会として、志木クラブ（菅野芳哉氏）を仮議長として定刻をやや過ぎて開会した。

議長選任、定足数確認、議事録署名人選出

仮議長は本総会に 42 個の「議決権行使書」、2 個の委任状提出を含め 45 個の出席があり、総会員数 66 の過半数を超えており、定款第 18 条の定足数を満たしている事を報告した。

つぎに仮議長は 2 個委任状の確認を行い、委任状が議長に委任している事から、定款第 17 条に従い、仮議長が引き続き議長を行う事を述べた。

続いて議長は定款第 22 条に従い議事録署名人に委任状提出の東京大学女子（下平歩実氏）、KeioHockeySchool 男子（浅里圭吾氏）を指名した。

ここで議長は和田会長に開会のあいさつを求めた。

会長挨拶（和田明仁氏）

東京都ホッケー協会会長の和田です。本総会は新型コロナウイルスリスクを回避するため WEB 総会という形とし、ご不自由をお掛けしますが、皆様のご理解、ご協力をいただき、有益な総会にして参りたいと思います。

「一般社団法人東京都ホッケー協会（以下、THA と記す。）」はご承知のように 2018 年 11 月に設立され、昨 2019 年度は初めて 1 年を通じて活動を行った事になります。法人とした目的は、法人化することにより、「コンプライアンスの実践、ガバナンスの強化、財務基盤の確立」がなされ、法人として社会から信頼を受ける団体になることでした。この結果、東京都或いは品川区等からの交付金・助成金、スポンサーからの協賛金もスムーズに受けられることとなりました。また謝金規程、旅費規程等の整備にも着手する等、コンプライアンスの実践、ガバナンスの強化にも力を注いでおります。

お陰様で THA の正会員数も 66 個（JHA 登録チーム数）になりました。JHA 登録選手数は昨年 11 月実績では 1,401 名で、東京都の人口 1,400 万人ですから 10,000 分の 1 という事になります。総人口の 20 人に 1 人はホッケー関係者というオランダとは比較になりませんが、せめて 1,000 人に 1 人というレベルにはし

たいものです。ホッケー界では競技人口を「日本ホッケー協会の主催する大会への出場権を持つ選手」と定義していますが、「ホッケー競技に係わる者」と定義して、広くホッケーを「する人」「観る人」「支える人」まで加える事も考えなければなりません。

THA では今年 2 月に開催した連絡会での議論を踏まえ、2020 年度はこれまでの委員会制から、大会＝「大会運営」、地域＝「普及推進」、チーム＝「国体強化」の 3 事業部会と、これ等を支えるコンプライアンス、マーケティング、競技基盤、総務の 4 委員会に再編する事としました。2019 年度に実施した事業の具体的な内容につきましても、「普及推進」「大会運営」「国体強化」に括って事業報告をいたします。

事業報告では、2020 年度以降の THA の長期構想にも若干触れますが、直近では五輪関連事業が縮小されると、THA として自由に使える財源が少なくなる事が大きな懸念事項です。これを補うものとして昨年にスタートさせた賛助会員制度を有効なものにして行く事が重要課題と認識しており、これについても報告させていただきます。

簡単ですが定時総会の開会にあたり、ご挨拶といたします。

監事監査報告（小池文彦氏）

ここで議長は審議に移る前に監事に監査報告を求めたところ、小池文彦監事は、箸本明雄監事との意見は一致しているとして、「2019 年度における、理事の業務執行ならびに決算に関しまして、法令および規約に違反する事実、もしくは著しく不当な事実はございません。」と述べた。

【報告事項】

事業報告

（普及推進）

普及推進事業について河原理事より以下の報告があった。

2019 年度は「東京 2020」の前年という事で、大井ホッケー場の開所式をはじめ、多くのイベントが行われ、ホッケー競技の普及推進に大いに力を注いだ年でした。小・中学生向けのホッケー体験教室は品川区で 36 回、大田区で 11 回開催され、これに加えて他区での開催、及び従来からの東大駒場ジュニア教室、2019 年度に新たにスタートさせた駒沢ホッケー教室を加えると、延べ 7,000 人の子供たちにホッケーを体験して貰いました。これらの活動の中から昨年度の「品川 2020」にひき続き少年団チーム「駒沢ホッケークラブ」が誕生しました。

大井ホッケー場の開所式は 8/17 に東京都の手で行われ、引き続き東京オリパラ組織委員会（TOCOG）の手で、「Ready Steady Tokyo」いわゆる五輪テスト大会が開催されました。TOCOG 主催の国際フォーラムで開催された「Let's55」でもホッケー体験コーナーを設け、普及活動を行ないました。

「Ready Steady Tokyo」は基本的に無観客試合とされていましたが、多くのホッケーファンの要望に応え、TOCOG、JHAに協力して「Hockey Family」を組織し、競技関係者として観戦していただくことが出来ました。「Ready Steady Tokyo」においてTHAは「Hockey Family」の誘導や、ホッケー体験コーナーの運営にあたりました。

シニア、女性向けの普及活動としてはシニア&レディーズ大会を継続しています。2018年度秋よりこのシニア&レディーズ大会を発展させて、マスターズ&レディーズリーグを発足させました。2019年度のシーズンはマスターズ5チーム、レディーズ6チームの参加で12月からスタートしました。新型コロナの影響を受け、2月以降は無観客とし、3月にマスターズは全日程を終了しましたが、レディーズは最終節を待たず中止といたしました。

一般向けの普及活動として毎年、駒沢オリンピック総合運動場で開催される「スポーツ博覧会」「体育の日 in 駒沢」があります。2019年度は悪天候のため「スポーツ博覧会」は中止、「体育の日 in 駒沢」は開催こそ出来たものの来場者が集まりませんでした。今年も10月11日に「スポーツの日 in 駒沢」は実施される予定です。

「東京2020」が一年延期となったため、品川区、大田区でもいろいろとイベントを計画しています。皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

(大会運営)

大会運営事業については市川明理事より下記の報告があった。

開所式・テスト大会終了後、大井ホッケー場はTOCOGによる仮設工事着工までの間、東京都から一般利用が許されました。THAでは日本代表の合宿日以外の日程調整を行い、関東学連、社会人連盟、都高体連の大会に供するとともに、THA自身も「HJL 決勝」で主管を務めました。にわか一般利用となったため、TOCOG/東京都/指定管理者(日比谷アメニスの備品や設備情報の共有が十分でなく、手探りの中での大会開催となりました。主管として臨んだ「HJL 決勝」は、テスト大会から2ヶ月の期間を活用できず、組織化も直前となり、集客は今一歩でした。大井ホッケー場の運営に関する方法はスタッフ一同、良い経験ができたと考えております。また指定管理者である日比谷アメニスのご理解と品川区のご協力でキッチンカーを配置する事が出来たこと等の成果もありました。THAは駒沢第一球技場についても、東京都から割り振られた日程に関し、各競技団体と調整を行っています。また駒沢第一球技場に物置2台を賃借し、ホッケー競技用備品を整備・保管し、大会開催に備えています。

(国体強化)

国体強化事業については右川理事より以下の報告があった。

国体強化は成年男女、少年男女の4種別共に宮田総監督以下全員が持てる力を十分に発揮してくれましたが、残念ながら本戦出場は果たせませんでした。簡単に総括を記しておきます。

成年男子は本選出場を逃したものの、長年勝てなかった日本リーグ参加チームを主体とする埼玉県に勝利し、決勝に進めた事は評価したいと思います。これは社会人・大学チームから広く選手を公募し、合宿を含め練習会等を通じてチームワークを高めて行った結果が要因と考えています。関東3強(栃木・山梨・埼玉)に肉薄するところまで来ましたが、本選出場の実現には、(東京から日本リーグ参加チームを作るといった、)一歩抜け出す方策を採る必要があります。

成年女子は戦えるチームになってきたと考えていますが、まだまだ強豪県とは差がある事は否めません。東京には国体参加資格を持たない有力選手も多く、社会人チームも3チームに増えてきたので、成年男子同様、東京に日本リーグ参加チームを作る等して、母体となれるチームを持ちたいと考えています。

少年男子は1回戦敗退ではありますが、強豪の神奈川県と接戦を演じ、一定のレベルアップは出来たものと評価しています。少年女子は1回戦で点差的には大敗ではあったものの、ホッケーのゲームとしては選手が手応えを感じられるものであった点は評価できます。各高校との連携、並びに監督・コーチ陣の熱心な指導によるものであり、ジュニア特別強化事業の成果でもあります。しかし、進学のため3年生が出場しないといった環境の中で本選出場を目指すのは至難であり、新たな枠組みも構築して行かないといけないと考えています。

(2020年度方針について)

2020年度の活動方針について多氣理事より報告があった。

2020年は言うまでもなく新型コロナウイルス感染症の影響を受け「東京2020」が2021年に延期され、秋の国体の開催も年内延期(関東ブロック大会は中止)となりました。その他の事業実施の目処も立っていない状態であり、THAとしても事業計画・予算は成立できないのが現状です。しかしその中でもTHAとして「東京2020」以降のホッケーの発展を願い、THAの果たす役割、あるべき組織を検討してきました。

THAはこの中で、地域と連帯し、ジュニア層への普及活動の強化を最重要課題と捉えています。大井ホッケー場での23大会75,000人集客の実現を図り、大井ホッケー競技場を文字通りホッケー場として存続させるとともに、子供達から憧れられる存在となる国体本選出場を果たすような強いチームの実現を目指し、新体制の構築を進めてまいります。すなわち「地域」「大会」「チーム」の一環となった事業運営を進めて行く方針です。大井なくして、発展なし。皆さまの参画をお願い申し上げます。

(法人収支について)

THA の法人としての会計について一川理事に説明を求めた。

2019 年度は事業規模としてはほぼ 2,000 万円、収支はほぼ収支均衡（やや赤字）といったところです。「普及推進」「大会運営」「国体強化」の 3 事業の括りで見ると、「普及推進」事業で毎週のように品川区・大田区の体験教室が開かれ、大変効率的・効果的に実施出来て大きな収益がありました。「東京 2020」テスト大会である「Ready Steady Tokyo」大会では「東京 2020 組織委員会」の予算が厳しい事から、日本ホッケー協会と経費を折半して負担しました。

「大会運営」事業では前述のプレ大会があったため、主催・主管する大きな大会は HJL 決勝のみであり、集客が予定より少なく赤字となりました。

「国体強化」は文字通り都国体チームの強化に係わるものです。収益としては東京都体育協会から交付される国体強化分担金です。交付金は使途が厳格に決められており、それ以外の出費は協会からの持ち出しとなります。今年はユニフォームが老朽化してきたことから、成年男女のユニフォームを新調したため大幅な赤字となっております。

「本部経費」の収益は正会員の皆様からの年会費です。支出は THA の所属する団体の年会費等で 70 万円、HP 運営費で 50 万円、理事会会場費・理事交通費、税金及び税務申告・変更登記等に係わる顧問契約、スタッフへの事務委託費等で 80 万円となっており、ほぼバランスしております。今年度はコロナで活動もないのに年会費を取るのか、といったご意見もいただきますが、競技団体の大会参加費とは主旨が異なります事、是非ご理解を賜りたいと思います。正式な決算書は議案書に「決算報告書」として添付しておりますので是非ご覧ください。

2020 年度の予算ですが、見通しの立つもののみ記載しております。国体強化については、都体協から例え国体が中止になっても強化活動は続けて欲しい、との要請があり、織り込んでおります。

(賛助会員について)

賛助会員について正田実理事より以下の報告があった。

THA は活動方針の中でも述べたようにジュニア層へのホッケー競技の普及に注力して行きたいと考えており、そのための資金源として 2019 年度に立ち上げた賛助会員制度を実りあるものになりたい、と考えております。

賛助会員は THA の活動に賛同いただける個人会員、及び団体会員からなり、年会費として個人会員、5,000 円、団体会員 50,000 円を納めていただいております。

2019 年度実績は、まだまだ少額に留まっていますが、ただ今の収支報告にもあったように、2020 年度は品川区・大田区の体験教室の予定も少なく、大変厳しい運営になるものと考えており、賛助会員の獲得に力を注いでまいります。

【決議事項】

第1号議案 2019年度決算の件

議長は審議に入る事を宣言し、第1号議案「2019年度決算」の件を諮る旨を述べた。決算内容については事業報告の中でも詳しく触れられたことから、ここでは質問を受付けたいとしてWEB議場に呼びかけた。

Q：(ヴェルディ)「決算報告書」の「正味財産増減計算書」の経常収益の「雑収益」、及び経常費用の「福利厚生費」の内容について説明していただきたい。

A：「雑収益」は駒沢第一球技場、大井ホッケー場の施設利用料を関東学連・社会人連盟等から入金いただいたものです。駒沢第一球技場・大井ホッケー場は都の施設であり、その指定管理者に対して利用の前年の定められた時期までに優先予約をする事になっています。優先予約が東京都に競技団体として認められた者に限られる事から、JHA、THAで集約して予約を行なうこととしています。事業費の施設利用料に対応するものですが、施設利用料にはTHAの自消分が含まれます。なおTHAは主施設利用料の10%を加算させていただき、備品整備・保管料に充てています。

経常費用の「福利厚生費」は大会運営等での「昼食弁当代」、及び国体強化活動での「食料栄養費」です。

議長は質問の無い事を確認し、本件を議場に諮ったところ、出席正会員の過半数を超える賛成を得て本件は承認された。

第2号議案 理事選任の件

議長は第2号議案である「理事選任」の件は、定款第20条3項に従い候補者ごとに決議を行ない、また定款第23条に従い、過半数を超えた賛成を得た理事候補者は全て「理事」に選任される事を述べ、名簿順に賛否を諮った。

理事候補者全員が出席正会員の過半数を超える賛成を得て、以下の通り15名の理事が選任された。

理事	和田	明仁	(重任)	理事	小川	仁志	(新任)
理事	市川	明	(重任)	理事	栗原	崇	(新任)
理事	一川	邦彦	(重任)	理事	近藤	聡史	(新任)
理事	右川	誠治	(重任)	理事	坂本	有里	(新任)
理事	河原	茂光	(重任)	理事	西澤	英一郎	(新任)
理事	菅野	芳哉	(重任)	理事	平田	麻佑子	(新任)
理事	塩野谷	住雄	(重任)				
理事	正田	実	(重任)				
理事	多氣	洋平	(重任)				

議長はこれにて総会の審議事項はすべて終了した事を宣言し、新たに選任された理事を代表して和田明仁氏に閉会の挨拶を求めた。

閉会挨拶

本日はWEB総会にご参加いただきありがとうございました。新型コロナ対応という事での初めてのWEB総会という事で不慣れの点もあり、皆様にはご不自由をお掛けいたしました。

新型コロナ対応も自粛から自衛に変わったと言われる今日この頃です。各自、各チームとも新型コロナに対する自衛を固め、ホッケー競技の再開を慎重かつ確実に進めていただきたいと思います。新たにスタートする理事会としても皆様の再開に向けてのご努力に対して精一杯支援したいと考えております。

最後になりますが、今日を持って退任される宮田理事、青木理事、鍋田理事のこれまでのご尽力に対して心からお礼と感謝を申し上げます。

それでは皆様と今度はどこかのグラウンド目に掛れることを願って閉会の言葉とさせていただきます。

議長は、ここで閉会を宣言し、午前11時30分閉会した。


上記決議を確認するため、本議事録が作成され、議長及び議事録署名人が署名捺印した。

2019年6月27日

一般社団法人東京都ホッケー協会


議長

菅野 芳哉

菅野 芳哉 

議事録署名人

下平 歩実

下平 歩実 

議事録署名人

浅里 圭吾

浅里 圭吾 